学校だより　練馬区立大泉学園中学校

発行日　平成２８年　１０月３１日（月）１０月号
発行人　校　長　桐野　和之

「志　定まれば、気盛んなり」

校　長　桐野　和之

江戸幕末の長州藩、現在の山口県に、吉田松陰という人物がいました。

目標に向かう自分の気持ちを志とし、その志を大切にしながら、日々実行していました。そして、「志定まれば、気盛んなり」という言葉を残しました。

志とは、心に決めた目標に向けて進もうとする気持ち、決心のことです。したがって、この言葉の意味は、目標への気持ちが志としてはっきりすれば、自ずとやる気や意欲が生じるということです。

さらに松陰は、目標を決めるだけでは十分ではない、なぜ、その目標を定めるのか、その目標を達成する意味は何か、と目標への意味を自分で明らかにしたり、価値のあることだろうかと自分でしっかり考えたりすることが大切だと考えていたようです。

つまり気持ちが入り強い意志があれば、目標について志をもち、気持ちは高まり盛んになるというわけです。

人は何かを始めようとするときに、自分は何のために実行するのだろうかと、ふと考えるものです。勉強やスポーツ、いろいろな体験活動など日常の学校生活にその場面はいくつもあります。そして、人が行動するには、行動した結果、何が生まれるのかとも考えます。この考え方は、今風に言えば、目標を定め、目標達成のための計画や実行方法をつくり、ワンステップずつ達成していくことになるマネジメントと言えます。

実は、松陰は、自分で実行するだけでなく、独自の学習方法を生み出しています。

松陰が教えていた松下村塾という塾がありました。そこに入塾してきた若者に、「抄録」という方法で、主体的な学びをさせていたと学んだ人が語っています。学ぶ若者の年齢に合わせて一冊の本を与える。よく読んで感銘したり、共感できたりした文章を自分で選んで、付箋という紙切れをその文章に貼る。次に自分で選んだその文章を、なぜこの文章にひかれたのかよく考えながら、その文章をそっくり写す。そして書き出した文章をもう一度よく読んで考えてみる。一冊終わると、松陰はまた一冊新しい本を与えて「抄録」をくり返させたとのことです。

日本の初代総理大臣である伊藤博文も十六歳くらいからこのような勉強をしたといわれます。何か素晴らしい考えを教えられたのではなく、自分自身で読書をし、なるほどというところを見つける。現在でも、読書でなるほどと思うとこはたくさんあっても、その部分を書き出して、もう一度考えてみるということは少ないと思います。この抄録という方法では、自分の感じたことや、考えたことがより深められていくのです。明治の近代国家を切り拓いた若者たちは、自主的に考える抄録という読書方法により、読んだ人の本当の考えを主体的に自分の考えに深めていったと思われます。

松下村塾で学び、明治という新しい時代を切り拓いていった多くの人物たちは、この抄録という主体的な学びが自分をつくりあげてくれたと振り返っているようです。

皆さんも、なりたい自分を想像し、志をもって、目標を抱いてみましょう。志が定まれば、必ず、自分もやってみようと前向きに、やる気が盛んになることと思います。

合唱コンクールを終えて

第１学年　～練習は本番のように、本番は練習のように～

１学年主任

中学校に入学して、初めての合唱コンクールが先日、練馬文化センター大ホールで行われました。１０月の声を聴くと同時にクラス練習が始まりました。

最初のうちは、中学校での合唱コンクールはどんなものかもわからずに、実行委員、伴走者、指揮者、パートリーダーが相談しながら手探り状態で練習を開始しました。なかなか練習方法がつかめずに、戸惑いがあり、うまく練習できなかったことがありました。しかし上級生の合唱に取り組んでいく姿を垣間見ることにより、各クラスとも次第に合唱練習らしくなってきました。

しかし、１０月１２日の体育館でのリハーサルではどのクラスにも音がとれていない生徒、歌詞をまだ完全に覚えていない生徒がいたためか合唱の歌声が大きく響いてくることはありませんでした。その際、先生方から鑑賞態度も含めた指導や助言がありました。その後、各クラスでの合唱練習では、声を出すこと、強弱をつけること、しっかり伸ばすところは伸ばすなど合唱のリーダーたちが考えて練習した成果が少しずつ見えてきました。それでも中には、練習中ふざけてしまい注意を受ける生徒が少なからずいました。私は、各クラスの練習を一通り見て回り、一年生の合唱が合唱らしくなってきたことを感じました。しかし、合唱コンクール当日は初めて大きな舞台に上がり、緊張もあったせいか、普段の学校での練習の歌声の半分程度しか聞こえてこなかったのは残念でした。

合唱コンクールの目的は、優秀賞や、最優秀賞をとることではなく、ましてや他のクラスに勝つことではないはずです。合唱を通じて、クラスみんなで一つのものを作り上げていき、その成果を発表することで、聴いている人や自分たち自身に感動を与え、感じることではないでしょうか。その意味で、本番だけ帳尻合わせをしようとしたり、どんなに素晴らしいハーモニーでも聴衆に聞こえなければ相手には伝わりません。クラスの全員が気持ちを一つにして、本来の目的を達成するべく努力すれば、順位など関係なく各自が達成感を感じられるはずです。

来年度への課題は残してしまいましたが、今後１年間でこれらの課題を一人一人が自分のこととして乗り越えていって欲しいと感じた合唱コンクールでした。

第２学年

第２学年主任

二学年では昨年度の反省を生かし、実行委員と教員が早い時期から話し合い、上級生としてふさわしい合唱コンクールを作り上げる計画を立てました。

学年集会を開き学年委員長が本年度の決意を述べ、学年全体でその気持ちを共有しました。自主練習として始めた昼休みの課題曲練習は、毎日多くの生徒が参加しました。

また、リハーサルを二回に分け、日にちを空けることで一回目のリハーサルの反省点を二回目にいかせる工夫もしました。

そして迎えた本番。どのクラスも、聞く側に感動を与える合唱を作り上げることができ、生徒一人一人が達成感を感じる事ができたと思います。現在、今年の合唱コンクールの取り組みの反省をしております。この反省を最上級生となる次年度に生かしたいと思います。そして今年以上の合唱を作り上げる事を期待しています。

第３学年

３学年主任

今年は学級担任を外れ、学年全体を見る立場での参加となりました。例年３年生は、最後の合唱コンクールということで、頑張りたい生徒とそうでもない生徒がいて、取り組みに対する温度差が生じます。その結果、クラスの中で不平不満が噴出し、揉め事が多く発生していました。今年の３年生もそういう場面が少しはありましたが、全体的にはとても仲良く練習をしていました。朝練習もどのクラスも積極的に行い下級生の良い手本となっていました。また、合唱コンクール実行委員を中心に自分たちで考え、担任の先生に頼りきることなく練習を進めていたのは、これまでに身につけた「自主･自立」の成果だと思います。
順位という結果は出ましたが、どのクラスも努力したことには変わりありません。それぞれのクラスカラーがよく出ていた合唱だったと思います。合唱コンクールが終わり、いよいよ３年生は受験へと向かいます。受験は個人の努力によるところが大きいと思われますが、実はクラスの団結が重要になります。みんなでよい雰囲気を作り、最後の一人が希望の進路に進めるまで、合唱で得た一体感を大切にクラス全員で受験の壁に挑んでほしいと思います。

合唱コンクール保護者アンケートより

１年生　保護者

トップバッターのクラスはプレッシャーがあると思いますが、よく声が出ていて感動しました。指揮の方も身体全体を使い、のびのびとしていてよかったです。ピアノも練習した成果が聞かれ、うれしく思いました。

２年生　保護者

練習期間が短いのに、すごく完成度が高く感動しました。１年生の時より、声も出ているようで成長していることを感じました。また、３年生は受験、卒業ということに向かい、自由曲を選択していて、心が伝わってくるようで素晴らしかったです。さすが３年生ですね。感動の一日をありがとうございました。役員の方々、いつもありがとうございます。

３年生　保護者

立派なホールで子供がとても緊張していました。３年生の課題曲は私も中学生の時歌った思い出の曲です。校内暴力が一番激しい時代で、皆リーゼントで余り練習をしなかったにも関わらず、本番は一生懸命でちょっと感動した日を昨日のように思い出しました。娘の弾いた曲、ちょっと失敗もありましたがよく頑張ったと思います。

３年生　保護者

毎年子供が楽しみにしている行事です。家でいつも、いつも歌って練習しています。嬉し涙も、悔し涙も人生の良い経験となっていくことでしょう。３年間ありがとうございました。
ひとつ心残りは先生方の歌が聞けなかったことです。とても楽しみに（親子共々）していたんですよー。お疲れ様でございました。

「いじめについて考える」

全校朝礼講話より
１０月２４日（月）

人権を辞書で意味を調べると、「人間が本来持っている生存、自由、平等などの権利」と出てきます。つまり人が生まれながらにしてもっている権利のことです。これは誰もがもっているのです。我が国の憲法にも、侵すことのできない永久の権利として、現在および将来の国民に与えられると記されています。

では、学校生活でこの人権が侵害されていることはないでしょうか。考えてみてください。

それはいじめです。「いじめ」は明らかに人権を侵害する行為です。

他人が嫌がることや気にしていること、気分を害するようなことをやったり、言ったりする。人がいやな気分になるとさらに面白がって調子にのる。他人を叩いたり、殴ったり、ライン等でも人が知らないところで悪口を書いたり。

いじめを受ける側に立つと本当に嫌なものです。気分を暗い気持ちにさせるだけでなく、学校生活や日常の生活も本当につまらないものにしてしまいます。

ケガ等による身体の痛み以上に、いじめは人の心を傷つけ、痛めます。当然日常生活の意欲を失わせることにもつながりかねません。だからいじめは人権を侵害する行為なのです。そして、絶対にあってはならない行為です。

いじめは本人から幸せな感覚を奪い、絶望的な状況に追い込んでしまう行為でもあると考えます。だからこそ、いじめを受けている人が、自らを追い込んでしまうようなことにつながることがあるのです。

でも、そこで考えてほしいのです。そのような時にこそ、心を癒やしたり、嫌な気分を晴らしたりするために、人に自らの心の悩みを打ち明けてほしいのです。そのような相手は自分の周りには実はたくさんいるのです。

学校の先生方、担任の先生や学年の先生。教科担当の先生。保健室の先生。スクールカウンセラーや心のふれあい相談員の方々。兄弟姉妹やいとこ、その他家族の方々、いろいろいるはずです。本当に辛い思いをしている時こそ、勇気をもって行動してもらいたいのです。それが自分を一歩も二歩も成長させることにもつながると思います。そして近くには必ず自分の悩みを受け止めてくれる大きな野球のキャッチャーミットのような存在の方がいることを忘れないでください。辛く、苦しい時にこそ勇気をもってください。

いじめは今日、法律にもその防止が定められています。これは皆さんにとっても、我々大人にとっても同様です。どうかいじめのない、誰にとっても過ごしやすい学校や社会を築いていきましょう。

追記　⇒　部活動等の結果については、次号にまとめてお知らせいたします。